ベストピア Bestopia
第413号
2021年7月号
パリ通信
第115号

弁護士・杉﨑　茂先生・　旭日中綬章

令和3年春の叙勲で弁護士・杉﨑　茂先生が旭日中綬章の栄に輝かれました。
真におめでとうございます。先生のご活躍の経緯からは当然のこととして、多くのファンの方々がその時期に注目をされていました。
先生は昭和54年4月に独立開業されましたが、開業と同時に先生を慕う地元の有力者の方々が「相模会」を組織されるほどに、地元に待望の星であり、誇りの的となられました。

私にとっては現役時代最大の恩人であり、最後迄ご指導とご援助を頂いた先生です。私は昭和54年8月に小田原で税理士業を開業しましたが、縁故知人のいない土地で行き先を見つけることが出来ないでおりました。先生はそんな私に「相模会」への入会を認めてくださり、多くの地元の有力な顧問先を紹介してくださいました。杉﨑先生は弁護士業にとどまらず、社長さん教育に力を注がれ、エクセレントカンパニーに匹敵する企業を数多く育成され、感謝されています。

旭　日　中　綬　章

艱難辛苦の幼少年期にご両親から受けられた教えが元となり、地道で正義感あふれる業務遂行は広く人々の知るところとなり、14年後の平成5年4月には神奈川県弁護士会副会長に抜擢され、平成16年は日弁連弁護士倫理委員、翌年は日弁連綱紀委員、その翌年には日弁連副会長に推挙されました。同時に神奈川県弁護士会の綱紀委員会委員長、人事委員会委員長と弁護士会でも独特の道に抜擢され、平成21年最高裁判所裁判官推薦諮問委員を平成24年迄勤められました。その後も神奈川県弁護士会で紛議調停委員会委員長、懲戒委員会委員長を令和2年6月迄勤められました。その歩まれた道はご両親からの教えが根幹に核としてあると私は感じております。真に敬意を表します。

杉﨑先生は後進の育成に力を注がれた数奇の専門人でもあられます。
O弁護士は横浜国立大学法学科大学院客員教授を勤めた後、最高裁判所司法研修所教官（刑事弁護）新司法試験考査委員・予備試験考査委員（刑法）、日本弁護士連合会司法修習委員会副委員長を経歴されてきました。
K弁護士は横浜弁護士会副会長、神奈川県弁護士会会長
F弁護士は横浜弁護士会副会長、神奈川県弁護士会県西支部長、
OM弁護士は横浜弁護士会県西支部副支部長、その後には昭和52年生まれ、平成2年生まれの弁護士と連綿とした勇士が育っています。人を育てる文化・精神的雰囲気のある事務所で、私も上記の先生方のお世話になったことが度々であり、人柄もよく存じております。
小田原は神奈川県の西に位置する地方都市です。中央で活躍できる人のチャンスは極めて少ないことを知る者として、杉﨑　茂先生の偉業は伝記として残されるべきだと考えます今後も続くご活躍とお弟子さん達の成長を楽しみに期待申し上げます。先生、有難うございます。

あと何日！　　そのあとで

「あと何日」、人生のある局面で誰もが体験する経過時間である。
多くは期待に胸が膨らむ「時を待つ」、数える時である。そして、その日は多くの人には忘れられない日（カイロス）となる。事態が大きく変化する時でもある。（速く過ぎ去って欲しいという悲しいときもあった）

私も「あと何日」で70代が終わる。新しい時を待っている。ドキドキ、ワクワクと多少の不安が入り交じった日々を過ごしている。何が待ち遠しいかと考えた。「更に自由になる」ことに気づいた。ほぼ整理はついている。出来ていない整頓に始末をつけられる気がする。夏目漱石は「道草」の最後で「まだ中々片付きゃしないよ」「片付いたのは上部だけじゃないか」（p333新潮文庫版）と言っている。これは、凡と非凡の差かも知れないが、整頓が出来ていないということは未整理の証拠である。選択したものの順序を入れ替えるのは整頓ではない。未整理なのだ。しかし、恵まれた目標はある。「目標は人生に希

望を与える」とかってのオリンピック選手が語っていた。「脳は目標がなければ働かない」とも教わった。美しく終わるにはみこころにかなった目標が必要だ。必要なものは与えられる。

「東京オリンピック2020」が秒読みの段階になった。「今」（2021/07/19）思うことは、その日が来たら、感じることができない貴重であり、馬鹿げたことかも知れない。
2021年7月23日は「〇〇〇〇にとってどんな意味があるのだろうか」
「どんな歴史が語られるのだろうか」

東京への招致が決まった日に、誇らしげに歓喜した人たちにとって、オリンピックがこれほどまでに「お荷物」になるとは誰が予想できたであろうか。自分の名声と利益（合わせて自分の都合）で招致に動いた主人公は「滑稽なマスク」をかけて表舞台からは降りた。もう一人の主人公も女性にその席を譲ることになった。

全世界に猛威を奮ったCOVID-19は、今なお「医療か経済」という天秤を人類に問いかけている。我が国は「東京オリンピック2020」という分銅を渡され、混乱のあまりにアクセルとブレーキを踏み間違えた。でも「そんな意識はなかった」と言い張って「あと何日」を数えている。こともあろうにCOVID-19は第5波にさしかかり、総理の懐刀であるワクチン接種は後手後手である。世界と日本の数字は桁が違うと開き直る人々の言葉には空しさを感じる。

始まる。安全であって欲しいと誰もが祈る。

「東京に世界から超人がやって来る」
オリンピック憲章の最初の言葉を引用する。
①オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。
②オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである。

応援する人は「世界新」や「オリンピック新」を期待する。超人はその期待に応える。観衆はその瞬間を待つ。歓喜があらゆる違いを超えて一つになる。その瞬間の共有には場が必要である。肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させ、選ばれた選手の最高の演技を観衆は見たい、応援したい、共に喜びを分かちたいと思い、その時を待っていた。COVID-19はその期待を破壊した。何故なのだろう。

こともあろうに7月下旬から8月の上旬は猛暑であることは予見されていた。開催地の権利は獲得したが開催時期を選択することは許されていなかった。マラソンを札幌に移すこと

が認められただけである。その札幌にも猛暑は挑んでくる。特権ある人間の都合が最優先される。その世界的な忖度の積み重ねを我々はこの1年で学んだ。延期には意味があった。それを生かすかどうかは、またしても人間の自由意志である。
「東京オリンピック2020」の期間中には広島の原爆被爆記念日があり、閉幕の翌日は長崎の被爆記念日がある。そして15日を迎える。戦争の勝ち負けではなく、戦争がもたらす悲惨さを繰り返さないとその日を記念日としている日本人の心を、日本人が自ら祭典に変えようとした。
毎年ささげられる原爆の日の子ども宣言「平和への誓い」には未来への希望が語られる。閉幕間際各種の競技は決勝戦に近づいている。その時、日本人の感情はどのように動いているのだろうか。閉幕の翌日の長崎の人々の気持ち、パラリンピック開催との谷間にある15日、総理大臣は与えられた原稿を公式通り読み上げることは分かっているが、その場の感情をどう現すのだろうか。鉄扉面無表情だけは見たくない。

ブレーキとアクセルを踏み間違えて、とてつもない悲劇を現実化しても「そんな意識はない」と言えるほどに人間には悔改めは遠くなった。
「私たちの運動会は中止になったのに、何故オリンピックは開催するのか」という子ども達の純粋な問いに答えられず、良心の呵責を覚える人も少なくない。それは慰めでさえある。そんな私見を超えて、選手と関係者の健康を祈る。もはや人間には出来ることが少なくなってきたのだから。

日本の日本人一時帰国の日本滞在条件

パリ通信」を毎月執筆してくださっている古賀順子さんからの情報です。
一時帰国の際にお会いできないかと打診すると次のような返事がありました。
「お会いできれば大変嬉しいのですが、自主隔離のため帰省しても誰とも会うことができません。日本入国と滞在条件がとても厳しいです。
ワクチン接種の有無に関係なく、帰国便搭乗72時間以内のPCR検査陰性証明を日本外務省が指定する証明書で取得すること
日本の国際空港到着後、全員PCR検査を受ける。合わせて
入国に際して以下が求められます
1) (自主隔離を確認するための)GPS移動確認アプリ(本人の位置確認)を携帯電話にインストールしているかの確認(先日帰国した友人は3回しつこく携帯電話を調べられたそうです)
2) 空港から自宅、ホテルなど、移動手段と滞在先証明
3) 健康状態質問アンケート
4) 自主隔離厳守の宣誓書
* 全員空港近くのホテル(国が負担)で三日間隔離。部屋から一歩もでることはできない。
* 日本到着日の翌日から三日間後PCR再検査陰性の場合のみ、自宅または自主隔離指定(ホテルや自主隔離費用は本人負担)に公共交通機関を利用せずに移動することができる。国

内線乗り継ぎ不可。新幹線、電車、バスなど全て不可。本人が運転するレンタカー、ハイヤー(大阪空港から福岡まで39万円)、家族が自家用車で迎えることは許可
* 日本入国日の翌日から14日間は自主隔離を厳守する

高齢の父に合うためには避けられない対策なので受け入れるしかありませんが、オリンピック関係者にもぜひ同じ対応をして欲しいものです！
航空券もオリンピック料金でエコノミーで往復25万円超えます。

自宅では14日間毎日役所衛生課から連絡が来ます。
メールで健康状態の報告、電話で自主隔離確認です。
犯罪者のように監視されます。
最低二十日はないとフランス・日本の往復ができない上、実家から一歩も外出できず、人と会うことも禁止されています。
毎回父親と閉じこもり日常生活を過ごすだけの帰省ですが、それでも大阪空港まで迎えに来てくれる家族、父の日常生活を支えてくれている親戚やヘルパーさんたちを思えば、できるだけ帰るようにしたいと思っています。（古賀）

パリ通信第115号

2021年パリ祭

7月14日小雨模様の肌寒い中「パリ祭」軍事パレードが行われた。昨年はコロナ禍の影響で「パリ祭」は無観客、コンコルド広場だけに縮小された異例の開催だった。一年経った今年のパレードは制限付きとは言え、例年通りシャンゼリゼ大通りを行進する形に戻ることができた。集団ワクチン接種の効果で、沿道の観客はマスク着用、2回のワクチン接種を終えて最低2週間を経た者に限られた。

6月末コロナ禍制限が解除されたフランスだったが、2週間でデルタ株があっという間に拡大した。一旦は一日の感染者数が1000を下回ったが、再び上昇傾向にある。手遅れにならないよう7月12日(月)夜マクロン大統領がテレビ会見を行い、緊急のコロナ対策を発表した。デルタ株拡大を阻止するためにワクチン接種を強制する決断である。
7月中旬フランスのワクチン接種率(2回の接種終了者)は国民全体の40%で集団免疫には至らない。

マクロン大統領は、

① 医療関係者、高齢者介護関係者、救急隊員を始め、一般の人を相手にする職業に対してワクチン接種を義務付けた。9月15日が期限でそれまでに2回の接種を終了しない者は解雇という厳しい条件である。スーパー、飲食店、スポーツ施設なども対象である。
② ワクチン接種パスがない者は7月21日からは50名を超える場所に入れない。
③ 8月1日からはカフェ、レストランもパスなしでは入れない。
④ 現在フランスのPCR検査は無料だが秋からは有料になる。
⑤ 長距離の列車、バス、飛行機などワクチンパスが無ければ利用できなくなる。

要するにワクチン接種をしなければ日常生活が送れなくなるということだ。副反応を危惧する人に限らずワクチン接種を拒否する人は少なくない。「強制」=「自由迫害」と訴える人もいる。ワクチン接種強制反対デモも各地で起こっている。何事も強制を嫌がるフランス人、予防接種義務への反発も理解できるが、ワクチン接種がコロナ禍の出口であることは確かだと思う。自己と他者をパンデミーから守るためのワクチン接種を義務付けることに賛否両論ではあるが、12日のマクロン大統領会見から若い世代のワクチン接種に拍車がかかっている。
2ヶ月後に控えた9月新学期のあり方に危機感があるからだ。一年間オンライン授業を強いられ、教室での対面授業を受けられなかった学生たちにとってワクチン接種は学生生活を続ける必要条件になる。7・8月でワクチン接種率をどこまで上げることができるか、まだまだコロナ禍は終わらない。

フランス人の多くはコロナ禍制限に疲弊し、7・8月夏のバカンスは楽しみたいと願っている。私自身コルビュジエ船の管理があるのでパリを離れることはできないが、マスクとワクチン・パスでできる文化活動を楽しみたいと思い、「ガブリエル・シャネル回顧展」に行った。
パリ16区にある「ガリエラ宮」(2年間の改修工事を終えて真っ白な外壁が綺麗だ)は新たなモード美術館として生まれ変わった。
1920年から1960年代の350点を超えるシャネルの作品を展示した「ファッション・マニフェスト展」である。
ロワール地方ソミュールに生まれたガブリエル・シャネル(1883-1971)は帽子デザイナーとしてパリで活動を開始する。富裕な投資家に援助を受けて1910年カンボン通り21番地に最初のシャネル・ブティックを開く。1913年にはドーヴィル店を開き、第一次世界大戦が始まり、物資が不足する中、男性に代わり働く女性たちが動き易く、シンプルでかつオシャレな服を作る。1920年、30年代のローウエストのチャールストン、刺繍で飾った軽やかなドレス、ツイードのスーツやコート、60年代までのシャネルらしい服は現代の女性も着たいと思う服である。100年経った今もシャネルの服はモダンだ。シンプルで自然なラインを尊重し、白や黒を基調に洗練されたエレガントな衣装、戦争や逆境にあっても女性の期待に応え、女性を解放する服を作ることができたシャネル。時代が求めるものは何かを考え、男性の背広に近い女性のスーツをデザインし、その新しさは今でも素敵に思える。モードに限らず歴史を作るのは時代を先駆ける人なのだろう。（古賀順子記）

1927年春-秋コレクション
(アンサンブル、絹)

1958年秋-冬コレクション
(シャネルが着ていたツイードのスーツ)

1960年春-夏コレクショ